

## ⑧ 水稻品種の育成

黒石市にある青森県産業技術センター農林総合研究所。水稻品種開発部では食味、品質、耐病性に優れた品種の育成と奨励品種の選定、優良種子の生産を行っている。県が今年2月、主食用米の新たな主力品種候補に選定したと発表した「青系196号」は、「まつしぐら」「つがるロマン」「青天の霹靂」に続く品種として期待され、2023年度の作付け開始と市場デビューを目指している。同開発部では、既存品種

挑め!

1/4ページ

# 壁の向こうへ

青森県産業技術センターの研究

# 交配150通りから一つに

# 新主食米23年度販売目標



世代促進温室で水稻の生育具合を確認する上村豊和部長＝1日、黒石市

よりも味が良く多収量で、病気に強い品種を作るため、毎年約150通りの交配に取り組んでいる。新品種誕生までに要する期間は約10年。より良い系統の選抜と、性質を調べるテスト

を繰り返しながら最終的に一つに絞る。青系196号は「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の流れをくむ品種で、近年の高温傾向に合ったコメの生産体制整備を狙い、09年度に

交配を始めた。現在は奨励品種候補の位置付けで、県内の気象条件に適合し、優良な品種と認められれば来年3月にも奨励品種になる。現在は作付けに適した地域を調べている。黒石市では十和田、八戸、六戸、三戸、田子、横浜の6市町のほ場で試験栽培中。まっしぐらと比べて穂が出るタイミングが似ており、登熟の期間も近いことから、同開発部の上村豊和部長(51)は「八戸市出身、北海道大卒業」は「まっしぐらが作付けできる場所なら青系」

味がとて安定している。露麩に次ぐ立ち位置になれる」と期待を込める。同開発部が開発する品種は主食用に限らず、飼料用、米粉用など多種多様だ。昨年は飼料用米「ゆたかまる」が奨励品種に指定され、県内の飼料用米シェアが高い「みなゆたか」の代替品種として期待されている。同じく奨励品種として選ばれた「青系208号」は、稲発酵粗飼料(ホルクロップサイレーシ)として活用できる。既存の飼料用米



試験ほ場で成熟期を迎えた「青系196号」(2019年9月、青森県産業技術センター農林総合研究所提供)

令和3年10月9日 デーリー東北 掲載

※この画像は当該ページに限ってデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです

※第1月曜日企画

(大澤諒)